



技術士だより

— (社) 日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター春季号<第35号> (平成10年3月15日) 発行

◇巻頭言

技術士センター“川野会長”の急逝を悼む

重富 秀雄 (技術士センター会長代行)

突然の訃報に途方にくれた1月22日の夕方の出来事から1ヶ月が過ぎようとしています。先月の1月21日午後3時21分、技術士センターの川野会長が急逝されました。

前日の1月20日午後5時頃、川野会長と技術士センターの平成10年度の事業計画の基本方針について話をし、「2月28日の会員研修会の時にゆっくりお話ししましょう」と言って電話を切り、私は出張に出かけました。1月22日夕方6時頃事務所に帰ると、一通のFAXが入電しており、川野会長が亡くなられたとの知らせでした。私は3度も同じFAXを読み返しました。一昨日電話でお話しをしたばかりなのにどうして……。すぐに原井前理事にお電話で確認したところ、原井前理事も「今でも信じられない」との言葉でした。

川野会長のお葬式には、福岡から笠木副会長、甲斐委員長、古賀事務局長、山谷第一部会長、野中さんと重富が列席しました。弔辞を述べられた親しいご友人の方々も「何故こんなに急にあなたとお別れすることになろうとは、誰も信じられない」と出席された皆さんには悲しみの気持ちで一杯でした。

川野会長は、大分県耕地課長から弓削水工コンサルタントの大分支店長に招聘され、昨年の技術士会九州支部・センターの総会で、技術士センターが独立した組織としてはじめての会長に選任され、技術士センターの新しい路線の構築に意欲をもやしておられた矢先のできごとでした。何事にも誠心誠意取り組み、信義を重んじ、自分の考えを素直に述べられるご性格の会長でした。私は、技術士会でのつきあいしかありませんが、誠に実直なお人柄であったと思います。まさに企業戦士としての最後と言うべきかもしません。

私は、会長のご意志を受けつぎ、活力ある親しみやすい技術士センターの今後の進むべき道をお手伝いして行きたいと思います。紙上をお借りして、川野会長の訃報を皆様方にご報告申し上げます。

川野会長のご冥福を心からお祈りいたします。

1人でも多くの方の入会をお勧め下さい

◇私の提言

“こりやなんだ”

笠木 直行（センター副会長・福岡・建設）

昭和40年代の半ばごろ、九州のあるダムの予備調査を行なっていたころのことである。高知県にロックフィルダムがあって、現地視察をさせてもらった。仕事も無事終わり、時間があるので、あの室戸台風の上陸地点として有名になった室戸岬に案内してもらうことにした。今ほど道路の整備は進んでおらず、途中では工事が盛んに行われていた時代である。凸凹道をゆられて、片側交互交通を繰り返しながら、やつとの思いで四国の東南端の室戸岬にたどり着いた。そこには「室戸台風上陸の地」と書かれた大きな標柱が建てられており、あたりは見渡すかぎり太平洋の大平原が広がって、はるかに水平線が見えるのみである。背後の丘の上の小径の脇に四阿があるので昇ってみると落書き帳がそなえられている。パラパラめくるとそれぞれいろいろ人の感想が書かれていたが、そのなかでただ一言“こりやなんだ”が目に飛び込んで思わず大笑いである。悪路をゆられながら時間をかけてわざわざこの地を訪れて、見たものは何と広々とした太平洋と「室戸台風上陸の地」と大書した標柱であったわけで、その人ががっかりした気持ちが表わされていたからである。

話は変わるが、今年も技術士の合格発表があり、全国で2,154名。九州管内で130名の新技術士が誕生した。登録手続きを済ませると晴れて技術士を名乗ることが出来るようになるが、同時に技術士として守るべき義務が課せられることになる。

技術士は、信用を傷つけ又は不名誉となるような行為をしてはならないし、業務上知り得た秘密を他に漏らし又は盗用してはならない。誠実に仕事に取り組み人から信用される人柄でなければならないのである。技術士は技術力のみならず人間的魅力も併せ持つことが必要である。そのためには、あらゆる技術の専門家集団である技術士会・技術士センターに是非加入していただき、同じ部門の技術士のみならず、他部門の技術士とのつき合いの輪を広げ、たえず技術の向上と品位の保持に務め人格を磨いて、あの人は本当に技術士だろうか？技術士とはこの程度の人間か！と言われないよう研鑽を積んで社会的地位の向上に努力してもらいたい。

技術士会・技術士センターに入会していない人達からよく耳にする言葉で「会に入ってもメリットがない」と言う人がいる。この人達は金銭的のメリットばかり言っているようだが、じつとしていておいしいところだけをいただこうと言うような打算的で視野の狭い考えでは、技術士としての資質に欠けるのではないかと思う。資格が取れたからこそ会に入会できるのであり、会のいろいろの行事に参加し、多くの友人を作ることは、それこそ大きなメリットであることにお気付きではないようである。

技術士会・技術士センターに加入して会の運営をしている技術士は、会の活性化、地位の向上のために無報酬のボランティアとして努力し汗を流している無私の人達である。

数は力なりと言う。一人でも多くの人が会員となって活動していただければ、会は益々活性化し、社会的地位も向上し、本人の資質も向上するという一鳥三石のメリットも生まれることになるのではなかろうか。

前段の話の“こりやなんだ”とはニュアンスは異なるが、技術士が“こりやなんだ”と人から呆れられないよう、さすが技術士と感心されるような技術集団になるよう多くの人の参加を願うものである。

この技術士だよりを目にした方々は、既に会員になっている人達であるが、皆さんの回りに未加入の技術士がいたら、是非この会に加入するよう勧誘をお願いします。

日本技術士会近況

矢野 友厚 (技術士会 理事)

平成9年9月2日、11月11日、平成10年1月13日の3回分を報告します。前の2回は各委員会の委員の交代、退任等の承認等の業務が多く、注目事項としては、APEC諸国における科学技術系人材活用動向に関する調査報告書が提出されたことである。また、11月11日には、地球環境技術調査委員会総括報告書が提出され、1月13日には平成10年度事業計画・収支予算が審議事項の主たるものとなったが、その要旨は次の通りである。

総括報告書一人類は自らの存在が、太陽・大気・水などの恵みと植物・動物・微生物などに支えられ、地球上のすべての生態系との平衡の下に、共存共栄によって初めて可能であることに、その思考の原点への回帰を忘れてはならない。地球は広大ではあるがその抱擁力には限界があり、現在の人類はこの限界の中での地球の平衡を破壊し始めている。

世界人口の面でも1800年頃に10億人、今から10年前に50億人に達し、2050年には100億人と予測している。日本技術士会の地球環境技術調査委員会では、機械・電気的技術、物理・化学的技術、土木・建設的技術、農林・水産・生物的技術、その他衛生・情報・経営的技術などを含む19分野の専門委員の手により、4つの分科会(第1分科会 2050年のエネルギー、第2. 生物を活用した環境創出、第3. ライフサイクルアセスメント(LCA)に関する諸問題、第4. 環境監査)の2年間の技術調査の成果を総括報告書としてまとめている。

次に1月13日の平成10年度事業計画の骨子は次の通りである。経済社会の国際化の進展に伴い技術者資格の国際整合化の動きが急速に進もうとしている。これまでEUでの技術者資格の相互承認NAFTAがよく知られているが、96年5月のAPEC域内でもこの問題への認識が高まり政府間審議にも各種会議に日本技術士会は積極参加している。順調にいけば平成10年度中に各国の資格同等性についての枠組みができ上がる。その他、国際化の動向は、同時に継続教育と資格の更新という課題も投げかけられている。本年度の活動方針は、第一；技術士制度の普及啓発 第二；技術士の研修研鑽 第三；技術士の積極的活用

(予算)一般会計 259,842千円 特別会計 446,533千円 合計 716,345千円 で予算計上されることになる。

○その他

(1) P L法関係でその他地区の状況

東北の四戸理事から、同支部と東京海上火災と契約している旨の発表があった。

(2) 理事会議事を月間技術士に載せる件

前向きに取り組むとのこと。

(3) 全国大会について

九州は華美であったとの声もあるが、これには反発しておいた。収支を公表されたい旨。

(4) プロジェクトチームについて

幾つかのグループができても仕方がない。

関東でも幾つかのものができている。裁量で正邪はきめられない。

但し、日本技術士会の試験業務に抵触するような誇大な宣伝が起れば許す対象外の事例となるので排除される。

◇ 拡大常任幹事会 報告

- ・日時：平成10年1月24日午後1時～午後5時30分
- ・会場：博多第一ホテル
- ・出席者：支部長、副支部長、センター副会長、各部会長、各委員会委員長、地区代表幹事、事務局長 計 19名
- ・開会に先立ち、去る1月24日逝去された九州技術士センター会長川野宏平氏の冥福を祈り黙祷を捧げた。
- ・川崎支部長より議題の提案趣旨説明があった。

[審議事項]

1. 第24回技術士全国大会報告
 - ・大会委員長及び財務委員長より、各支部の大会についての評判、並に会計報告がなされた。大会の運営については概ね好評で、収支についても過不足なく行われた。当支部として大会を通じて、九州支部技術士会の地位の向上と会員増強の所期の目的は達したと思われる。
2. 平成9年度受験対策講座実施報告
 - ・技術士第二次試験受験対策講座について、一般的の誤解を招かぬよう本年度より育成委員会を普及啓発委員会に名称変更、委員と講師の業務を明確に区分した。
 - ・普及啓発委員より収支について会計報告がなされた。
3. 政策委員会報告
 - ・政策委員長より支部組織改善案について報告があった。特に、総務委員会・業務企画委員会の強化、事務局の改善、各委員会における副委員長の設置等が求められている。
 - ・特別委員会としての政策委員会の活動を本報告をもって終了したい旨、要望された。
4. 会員増強と今後の対応
 - ・支部長より会員数の現況と増減について説明があった。会員の増強と支部運営は諸般の面で密接な関係にあり、このため会の運営を魅力あるものにすること、並びに各県在住の技術士会へ未加入者の支部・センターへの全員加入を勧める努力が必要である。
5. 平成9年度決算見通し、平成10年度予算骨子
 - ・事務局長より平成9年度決算見通しが報告された。
 - ・平成10年度予算作成のため、各委員長は支部長より2月末迄に予算案の提出が要望された。
6. 事務局改善強化策
 - ・今後の事務局のあり方について委員会を作つて検討する。
 - ・早急な問題として事務局移転について臨時の委員会を編成し調査を行なう。
7. 委員会部会の変更
 - ・第一部会から第六部会まで構成人員数に著しい差があり、部会運営にも支障があるので一部の部会の廃止統合が支部長より提起された。討議の結果、部会活動は所属部門に捉らわれることなく、個人の業務や興味を主に考え所属以外の部会にも参加を可能(複数所属)にすべきとの結論になった。
8. 各地区に対する助成金
 - ・支部長より各支部に対する助成金の配布額について、地区の活動状況や会員増強の程度に応じて、従来の会員数基準とは別に何等かの基準が必要ではないかの問題提起がなされた。
9. 各委員会、部会からの予算要求と執行権限
 - ・第5議案中の平成10年度予算に含む
10. 各常設委員会よりの提案事項
 - (1)活性化委員会提案事項：技術抄録集発行と必要経費について
 - (2)事業委員会：本年度中四国合同研修会と地方産学官合同セミナー開催について
 - (3)総務委員会

-
- ①広報活動の強化：総務委員会の下部機構の編集委員会を独立の常設委員会への移行
 - ②公的業務支援活動：PI問題、裁判での鑑定等の公的業務の技術的支援活動の推進
 - ③情報化の推進：インターネットの活用、九州支部としてのホームページの作成

11. その他

(1)技術士の求・転職情報の一元化：帆足副支部長(建設)が担当する。

(2)プロジェクトチーム関連事項

従来プロジェクトチームの結成は本部業務委員会専管事項であるが、支部活動との整合性を考えて会長決裁事項に改めてもらう様に支部長会議に提案する。

以上

人事

◎九州地方技術センター会長川野宏平氏の逝去に伴い、次の人事の変更がありました。

・九州地方技術センター会長代行 重富 秀雄(副会長 福岡 経営工学)

・大分県地区代表幹事 筧島 昇(大分 建設)

◎部会幹事についても一部変更があります。

・第四部会長(幹事) 平 信雄 (福岡 水道)

部会報告

◇第一部会 技術研修会報告

山谷 三郎(第一部会長 福岡 機械)

平成10年('98)2月7日(土)12時50分より17時まで、博多第一ホテル会議室にて、23名の参加者を得て、平成9年度第一部会技術研修会を開催しました。本年度は技術士全国大会が福岡市で開催された関係もあったので、例年2回を一回に纏めての3名の先生による講演となりました。先ず12時50分より10分間研修会主題と第一回からの経過説明があり、続いて題一番目の講演は、「インドネシア発電所の灰輸送処理について」と題して技術士・機会部門の久保田英士先生でした。概要は、(財)海外貿易開発協会(JODC)派遣による'92~'97におけるインドネシア国営電力、スララヤ発電所での世界最大規模と言われる石炭焚きボイラー用水封式チェーンコンベアに関する基本計画・工場政策・現地据付工事迄を含む一貫建設工事の技術説明でした。建設に当たって、国情・国民性・民情・技術レベル等による各種の困難や失敗を克服しながらの難工事が存在されたことに海外事業の大変な困難性と要点を知り得ました。

第2番目の講演は、「EMO ハノーバー'97展より見たハイテク工作機械の展望」と題して、技術士機会部門の佐藤淳一先生でした。広大な見本市会場には、世界40カ国2182社からの出品で賑わい、ドイツ産学協力研究体制の話と、先生独り旅のよもやま話は注目でした。

第3番目の講演は、「電圧・電流・磁界センサーの高性能化と現状について」と題して、技術士電気・電子部門の園田敏勝先生でした。最先端センサー技術に関する説明であり、先生独自の理論と試験装置により測定結果を交えての実証証明に不快感銘をうけました。

研修会の結びとして、川崎支部長、田中正人先生等による連絡事項説明の後、希望者による一階食堂での懇親会を持ち、技術余話を含む各種会話の花が咲き、19時30分頃散会となりました。

以上

◇ 第四部会 研修見学会報告
(志摩町黒磯浄化センター見学会)

武部 茂(福岡 水道)

昨年11月26日、三原第四部会長を始として総勢11名にて、志摩町芥屋の黒磯浄化センターの見学会を行ないました。

生活排水等による漁場や海水浴場等の汚染防止を目的に、芥屋地区の特定環境保全公共下水道が平成4年に着手され、平成7年度末から供用開始されているそうです。

事業概要

処理面積		32 ha
処理人口	観光人口	5,600人
	定住人口	970人
計画 汚水量	平均	550 m³
	日最大	650 m³
	時間最大	1,250 m³
概算事業費		20億円

黒磯浄化センターは、小規模下水道に適するオキシゲーションディッチ法が採用されています。

芥屋地区の水洗化率は、60%程度で污水の流入量は、平均160m³/日 处理水質は、BOD 1 mg/l、SS 6/l、透視度30であり、良好な稼動状態のことです。また汚泥は1年半経過後の現在発生していないとのことです。

今後、下水道の普及率の向上を図るために、小規模下水道の重要性がますます高くなることが考えられ、環境保全及び水資源問題の解決策の一手段としても、更に期待されるものではと言う想いで帰途につきました。

最後にお世話になった志摩町下水道課の中山様、森様に心から御礼申し上げます。

以上



◇第三部会 研修会報告

本田 整（第三部会長 北九州 金属）

第三部会は、金属・化学及び資源の技術士からなる総数31名の部会である。2月20日に本年度最初の部会を北九州テクノセンターで開催した。今回は、部会の初めての試みとして北九州の技術士会の協賛で実施した。金曜日の午後6時からという時間帯であったためか部会員は4名だけの参加であったが、他部門の技術士も含めると総数24名が集まり盛会であった。

講演は、化学部門の小柳嗣雄先生（北九州 化学）にして頂いた。「無機酸化微粒子の工業的応用」と題し、先ず微粒子の多岐にわたる応用例を紹介された。

次に、微粒子のコロイドの機能性が微粒子の表面の性質や大きさ或いはバルク（物質事態の性質）によって異なり、それに応じ用途が定まるとのことであった。

また、微粒子の電気的特性についても話され、微粒子はそのもの自体ではなく溶媒を引きつけ、言わば溶媒の衣をまとった形で存在しているとのことで、コロイドの形態について新しいイメージを得た。

微粒子の実際的な応用例として帯電防止や電磁波の反射防止コートの微視的構造についても説明され、傾斜機能を付与した膜や微粒子自体ではなく隣接する微粒子間の隙間の特性を利用する応用例等興味ある話があった。

チタニア多孔質膜を利用した太陽電池の説明もなされ、理論効率33%（実効率12%）のものがスイスとのベンチャー企業が開発して商品化している話もあり興奮した。

講演に対する質問も、多分野の技術士が参加されたので、種々の視点から行なわれ、盛大な拍手によって第三部会研修会は終了した。

◇熊本県技術士会セミナー報告

青山 次則（熊本地区代表幹事 建設）

日 時・場 所：平成9年11月14日 18:00～ 於、リバーサイドホテル

テーマ・講師：「九州の空の現状」 松尾 俊宏 先生(技術士 水道)

平成9年度熊本県技術士会セミナーが多数の会員出席のもと、12月18日(木)熊本市内のホテルで開催された。

今回のテーマは「九州の空の現状」について、熊本市都市整備局中部浄化センター所長の松尾俊宏氏が講演を行なった。同氏は会場自衛隊の出身であり、その経験から現在建設予定地についてホットな論議が行なわれている九州国際空港の将来展望について、日頃一般に馴染みの少ない航空会の情報を交えながら説明を行なった。その内容は、(1)飛行機の構造 (2)パイロットの養成過程 (3)飛行方式 (4)航空管制 (5)熊本と福岡の航空管制の現状 (6)九州の制限空域（訓練空域と軍事制限空域）について、スライドを使って説明がなされた。

このような空のルールを基に、新しい空港を建設する場合、地形、航空気象等の自然的要因の他に、現在の空港の出発・航空路の現状を踏まえて、安全で効率的な空港の運用が必要であると説明がされた。

この他国際空港に関連して、旅客機が熊本～東京を飛行する場合の具体例や、代表的国際線ルートである北米、ハワイへの飛行ルート等についてスライドを利用して説明があった。

更に、世界で最も近代的空港である香港国際空港についてタイム誌を引用しながら2040年の世界の航空需要を予測しその40%がアジアにおける旅客需要であり、この見通しに立って、香港新空港をアジア地域におけるハブ空港としての位置づけのもとに建設されており、長期的な見通しと、その規模の大きさについて紹介があった。

最後に、今日ほど充実した地域取組みが求められており、技術士会のシンクタンクとしての重要性についてアピールが行われセミナーを終了した。

◇YCE福岡 第33回定例会 報告

林田 修一 (福岡・建設)

YCE福岡 (Young Consulting Engineers 福岡) では、2ヶ月に1度、会員の交流・研修を目的として定例会を開催しています。定例会 (18:30~21:00) では、参加者の1分スピーチ (近況や最近思うことを1分にまとめて話す)、ノウフウ (自己紹介)、ホットな話題 (専門分野での最近の技術紹介) という3つの柱で会を進めています。

今回の定例会 (2月25日) では、ホットな話題に変えて、技術士全国大会で司会をされた林田スマさんをお招きし、「技術士を夫に持って」と題して講演をしていただきました。林田スマさんは、元RKBアナウンサーで現在はフリーアナウンサーとして、また、大野城まどかぴあ女性センター所長としてご活躍されています。

講演では、ことばには、人に勇気や感動を与えること、人の心をぐさっと傷つけたりする不思議な力があり、心のこもった「質のいいことば」が、人間関係を豊かに、潤いのあるものにしてくれるなどを、身近な事例や経験を交えてお話ししていただきました。博多弁や地方のことばを効果的に織り交ぜ、笑いあり感動ありの林田スマさんの語り口にいつのまにか引き込まれ、約1時間の講演があつという間に過ぎました。その内容をご紹介いたします。

この講演の中で、最近、夫婦のコミュニケーションが希薄になってきていることに触れられ、例えば、身近な自然の変化を見て奥さんが「庭の花がきれいね!」といったのに対して「そうだねきれいだね」と素直に応えられない夫が多くなってきているそうです。夫婦のコミュニケーションでは、量は要らない、質のいい言葉を一言でも言えることが大切で、そのことにより情緒の共有が可能です。「言わんでもわかっとうもん」と言われるけど、現実には心で思っていても言わわれないと分からない。心がどう思っているかをすっと表現できれば、質のいい言葉を出すことができれば、得をし、家族関係も良くなるのです。

日本には沈黙の文化があり、沈黙は金と言われ美德とされてきましたが、言葉は人間の最大の発明であるとも言われております。男性は、ことばをもう一言をたすように心がけ、言ってもいいなあということは口に出していくたほうがよいようです。心を素直にことばにしたほうが良いし、ものは上手に言えたほうが得をし、人間関係もプラスになります。

会場の様子を見ながら、「聞き上手とは」と話題を転換して、話す人にとって聞く人の“うなづき”は大きなエネルギーであり、うまく“相づち”をうつてくれる聞き上手がいてくれると、話にも力がこもります。この“相づち”的表現には32種類ほどあるそうで、お互いの話の中で種類は多くなくとも多様な相づちができると会話も楽しくなるようです。“うなづき”や“相づち”によって、聞く人の心が開いていると感じるときに、話す人の喜びがあるのです。

そして、言葉がビタミンより効くということを、御自身の家族の会話を例にお話しいただきました。ある時、子供さんがおばあちゃんに「自分がまっすぐ育つとは、どうしてと思う?。おばあちゃんのおかげたい」と言ってくれたそのことばで、おばあちゃんは勇気づけられたそうです。こうした身近なことばにまつわるお話を『ことばの花束』という本にしたためられています。

講演の後、出席者からの質問にお答えいただき、アナウンサーになるきっかけやいろんな方との対談での準備や心がけ等についてお話ししていただきました。現在は、RKBラジオの土曜日午後8時から3時間の生放送を担当されています。



◇公的業務支援小委員会第2回議事録

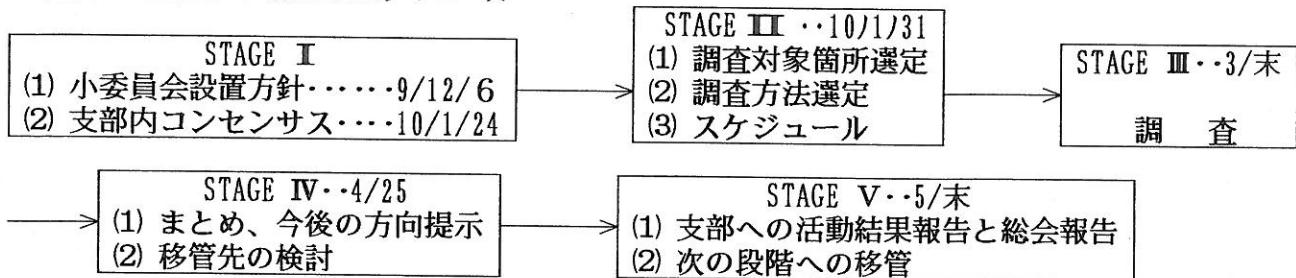
泉館 昭雄(北九州代表幹事 電気・電子)

昨年12月6日、製造物責任問題や裁判に於ける技術鑑定等の業務で当会所属の技術士が積極的に関わる機会を模索するために公的業務支援準備委員会を発足させ、月1回のペースで具体的な進め方を検討しています。今回は第2回目の会合です。

日 時：平成10年1月31日 13:00～15:00 於：福岡市赤煉瓦文化館

出席者：川崎支部長、田中(総務)、斎藤(活性化)・光岡(普及啓発)、泉館(北九州)各委員長・幹事
[議事内容]

1. 検討の STAGE の構成とスケジュール



2. STAGE III の内容検討···検討対象箇所及び分担

(対 象)

(担当)

- (1) 通産局 川崎支部長
 - (2) 福岡県庁、NE DO、商工会議所、 田中委員
 - (3) 中小企業行政機関、労働安全・衛生コンサル関連 斎藤・田中委員
 - (4) 弁護士 斎藤委員
 - (5) JICA/KIC、東京海上、北九州市 泉館委員
 - (6) 自治体工事監査、建設コンサルと機械・電気技術士 光岡委員
- の結合の可能性

要検討事項：環境分野、工業試験場等の調査については未定

調査の要点：相互にメリットのある業務はどういう条件であれば存在するのか

3. 事例紹介

(ORIGINAL [資料取得先])

- (1) 日本技術士会本部
- (2) リ リ
- (3) リ リ
- (4) 技術士会東北支部PL法業務委員会
- (5) 日本技術士会本部
- (6) 技術士会九州支部
- (7) 日本技術士会本部
- (8) リ リ
- (9) 北九州地区PL分科会
- (10) 大村市
- (11) 技術士会中部支部

(資料出処先) *

	(日付)	(資料提供者)
東京弁護士会	H 8. 9. 30	斎藤委員
日本損害鑑定協会	H 7. 5. 24	リ
最高裁技術鑑定人登録制度	H 6. 6	リ
東京海上火災	H 8. ?	矢野理事
三井海上火災	H 8. 1. 1	斎藤委員
東京海上火災九州支社	H 10. 1. 21	泉館委員
自治体工事監査業務	H 8. 8. 27	リ
工学鑑定センター構想	(企画中)	(本部)
吉田弁護士との会談	H 9. 9	泉館委員
大村市監査公表	H 8. 4	時永(北九州)
中部技術センター紹介	H 9. 1. 15	川崎支部長

*泉館委員一括保管

4. CLIENT (依頼者)と技術士、技術士会との関係

依頼或いは契約の方法でいろいろなケースが想定される。

	ケース	支部技術士会(B)	技術士会(C)
依頼者(A)	技術士会へ直接依頼	受託し、技術士(C)を選定する	技術士会(B)と契約
	技術士会と業務提携	業務提携し、(A)への窓口(C)を紹介	依頼者(A)と契約
	技術士へ直接依頼	—関係なし—	(A)と直接契約
	本分を通じての依頼	本部既契約を適用する	今後調査する

◇日本技術士会機械部会出席報告

沼尻 健次（北九州 機械）

日時・場所：平成9年11月14日 18:00～20:00 於、機械振興会館

報告事項：技術士制度の国際認証化折衝報告 技術士（経営工学部門）尾島正男 先生

本件について「海外技術者資格調査からAPEC相互承認プロジェクトへの発展」と題して講演があったので報告する。要旨は次の通り。

1)これまでのいきさつ

日本技術士会は、日本の技術士制度と海外の技術者資格との国際間運用の実態を把握して、国際的相互承認を図ることを目的に1995年度から欧州・東南アジアおよび豪州並びに米国の調査を科学技術庁の委託により行った。

また、期を同じくしてIE Australiaから、日本技術士会に専門職業資格相互承認プロジェクトへの参加の呼びかけがあつた。

現在、科学技術庁を中心とする産学官合同の懇談会やエンジニア教育検討委員会が発足しており、日本技術士会はこれらとの連携をとりつつAPEC相互承認プロジェクトに参加している。

2)調査・交流のいきさつ

*米国技術者団体との交流及び技術資格動向調査(1994・1995・1996)

*欧洲技術者資格制度並びにWFEO定期大会(ハンガリー)での交流(1995)

WFEO (World Federation of Engineering Organization)

*東南アジア及び豪州の技術者資格制度及び交流(1995)

豪州はAPEC相互承認への働きかけを行つており、この機会に日本技術士会、科学技術庁が積極的にAPEC相互承認プロジェクトに乗り出すことになった。

3)APEC相互承認プロジェクトの現状

*国際的な資格制度の基本要件(下記の4要件)

・認定された基準に基づく工学教育

・一定年限の実体経験

・資格試験及び審査

・継続的教育

*APEC分科会-A:APEC Engineer の登録者要件審議

・認定または承認されたエンジニアリング課程を終了していること。

・自立した業務を遂行す能力があること、新たに設立する機関から認定されていること。

・卒業後、少なくとも7年間の実務経験を有すること。

・この内、少なくとも2年間は、重要なエンジニアリング業務の責任ある立場での経験を有すること。

・系統的な専門能力を満足すべきレベルで維持していること。

*APEC分科会-B:工学教育の認定／承認審議

・エンジニアリング業務は、Graduate Engineer によって遂行されねばならない。

・Graduate Engineer は、上記エンジニアリング課程を終了していること。

・エンジニアリング課程とは、各APEC参加国のエンジニア協会または所轄官庁によって公表された基準に基づきエンジニアリング実務に適切な教育課程であるとそれらが審査・認定されたものであること。

*今後の予定

・1997年11月:運営会議(シドニー)にて、一般協定を承認。1998年の本プロジェクト予算が認められれば、更に審議続行の予定である。

・APEC技術者相互承認プロジェクトの参加国(現在14ヶ国)

オーストラリア、タイ、韓国、カナダ、ニュージーランド、香港・パプアニューギニア、

インドネシア、日本、フィリピン、アメリカ、マレーシア、シンガポール、ブルネイ

以上

◇平成9年度技術士第一次試験試験結果

平成9年12月24日、平成9年度技術士第一次試験の合格発表が有りました。結果は次の通り。

区分	全 国	福 岡
受験申込者数 (A)	7,996名	666名
受験者数 (B)	5,089名	422名
合格者数 (C)	1,109名	75名
対申込者合格率 (C/A)	13.9%	11.3%
対受験者合格率 (C/B)	21.8%	17.8%

◇平成9年度技術士第一次試験合格者名簿（福岡会場分）

[機械部門]

小川 孝法
[電気・電子部門]

久留島 卓朗
小早川 俊祐

[建設部門]

小川 宗正
大嶋 秀司

佐伯 直敬
渡邊 美子

北田 幸夫
富田 功

日高 英介
大内田 憲一

樹屋 博志
芳地 康征

井戸 勇二
西 剛

谷 大輔
田中 秀樹

(建設統括)

柳田 公敬
西村 敏郎

西 大輔
石田 貴顕

大嶋 秀司
小坂 策春

佐伯 直敬
山田 祐一郎

渡邊 美子
森山 洋次郎

北田 幸夫
八重尾 恒彦

富田 功
松永 敬治

日高 英介
橋本 孝太郎

大内田 憲一
大東 輝武

樹屋 博志
叶 晋二

芳地 康征
水沼 道博

井戸 勇二
楠田 弘治

西 剛
佐原 邦朋

谷 大輔
有田 勉

田中 秀樹
天方 匠純

(建設統括)

大久保 伸彦
吐師 一彦

多田 憲生
加来 義啓

中嶋 正文
亀井 友紀

阿南 由美子
河野 新司

濱田 義文
八重尾 恒彦

松永 敬治
山下 由紀

日高 英介
橋本 孝太郎

大内田 憲一
大東 輝武

樹屋 博志
叶 晋二

芳地 康征
水沼 道博

井戸 勇二
楠田 弘治

西 �剛
佐原 邦朋

谷 大輔
有田 勉

田中 秀樹
天方 匠純

[衛生工学部門]

谷川 哲也
浦詰 佳憲

堤 英郎
岩本 是

吉田 美穂
占部 智寬

吉岡 英雄
相田 剛伸

古家 光之
吉岡 英雄

田川 智子
古家 光之

須賀 祐治
韓 兵

牧野 武人
堀 浩一郎

瀬口 隆志
吉武 壽志

富松 篤典
横田 潤治

中井 敏公
中井 敏公

[応用理学部門]

古賀 政治
佐藤 丈晴

後藤 啓治
徳永 浩一郎

紫村 一真
石崎 陽

田中 章江
住田 元信

加藤 美香子
[生物工学部門]

田中 章江
住田 元信

加藤 美香子
[環境部門]

小川 真一
計 75名

(前年度 62名)

行事

◇九州支部技術士会、九州技術士センター行事日程

現在確定している本年度支部及びセンターの行事日程は次の通りです。

- ・平成9年度会計監査

日 時：平成10年4月18日（土） 10:00～16:00
場 所：福岡商工会議所 603号室

- ・平成9年度第2回合同役員会

日 時：平成10年4月25日（土） 13:00～16:00
場 所：福岡商工会議所 605号室

- ・平成10年度定時総会

日 時：平成10年5月30日（土） 13:00～19:00
場 所：福岡商工会議所 301号室

- ・平成10年度第1回合同役員会

日 時：平成10年6月6日（土） 13:00～16:00
場 所：福岡商工会議所 605号室

◇平成9年度技術士第二次試験結果

今回発表された平成9年度技術士第二次試験の結果および昨年度との比較は次の通りです。

区分		9年度	前年度
受験申込者数 (A)		27,796名	20,167名
筆記受試験者数	受権者数 (B)	15,341名	14,135名
	棄権者数 (C)	2,444名	2,355名
	計 (D)	17,785名	16,490名
筆記試験合格者数 (E)		2,350名	2,304名
口頭試験受験者数 (F)		2,349名	2,302名
口頭試験合格者数 (G)		2,154名	2,118名
対受験申込者合格率 (G/A)		7.7%	8.1%
対筆記試験受験者合格率 (G/B)		14.0%	15.0%

◇平成9年度技術士第二次試験合格者名簿（福岡会場分）

[機械部門]	(建設統括)	(建設統括)	(建設統括)	(農業統括)
小林 宰	加来 雄一	松本 勉	久我 一郎	益満 照美
藤内 哲夫	田沼 和夫	岡部 成光	坂本 崇典	中園 孝一
木寺 亨	河田 育康	井上 和敏	竹内 一博	田淵 博文
[船舶部門]	目山 直樹	岩尾 武洋	恒松 泉	堀江 信一
川野 始	原園 和昭	津田 光則	井元 利則	[林業部門]
金子 幸雄	徳永 哲	藤本 昌弘	永渕 正夫	遠矢良太郎
[電気・電子部門]	田中 省二	武末 博伸	[水道部門]	[水産部門]
溝田 安彦	林 秀樹	川北 一明	手島 徹	村上 寛
[繊維部門]	佐土原裕一	早川 洋	原田 敏彦	冷川 久敏
大隈 茂	朱雀 和彦	園田 宣昭	山口 岳夫	[情報工学部門]
[建設部門]	川原 孝	瀬戸口章蔵	浜田 紘	外山 真也
金子 雅則	福元秀一郎	赤星 文生	大山 孝利	[応用理学部門]
後藤 正行	宮田 英樹	牛草 陽一	蒲原 澄夫	池田 忠夫
田上 博彰	勝木 和徳	小原 和憲	古川 好徳	村嶋 光明
友近 栄治	光成 政和	大城 久雄	[衛生工学部門]	瀬尾 孝文
山下 伸二	竹原 隆	佐々 典明	森 靖英	中澤 清
大串 正	森川 幹夫	幸 徹	小川 常行	竹原 哲郎
橋本 晃	野口 浩	安友 昌治	林 英男	[環境部門]
小松 和彦	中條 徳翁	古賀 徹志	田中 衛	皆川 和明
橋本 秀成	山田 清	兵頭 公顯	森 正文	柴田 剛志
城 秀夫	馬場 紘一	倉原 隆二	[農業部門]	宇都宮 樺
塩満 龍男	是沢 肇	利光 俊勝	石堂 隆憲	田崎 順二
大原 隆司	久保 朝雄	鈴江 康人	和田 修二	
中島 城二	宮本 修	執行 信	早野 美雄	
津崎 博美	園村 孝	渡部 秀樹	佐藤 晃一	
坂口 和雄	三浦 一正	新留 司	國武 昌人	
小正 高浩	樋高 浩一	田野慎一郎	岩田 博文	計 130 名
金田 尚司	田辺 俊郎	平尾 亨	小倉 健二	(前年度 122 名)
白坂 敏夫	天野 紀	印藤 栄次	次田 勝栄	
中野 卓朗	竹山 雄二	松本 寛	坂口 康雄	

技術士センター

◇平成10年度技術士2次試験受験 総合研修講座

技術士センターでは標記について、下記の通り計画しています。

(記)

第1回講習会

日 時：平成10年4月18日 (土) 9:00～17:00
会 場：福岡商工会議所ビル
福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 TEL(092)441-1111

講習内容：受験合格のための研修方法総合指導
経験問題論文テーマ選定と纏め方（個人別指導）
必須・専門両科目研修方法（部門・科目別指導）
前記添削：経験・必須・専門各科目答案添削
注：受講の際、すでに体験論文を作成されておられる方は、その論文を持参して下さい。

第2回講習会

日 時：平成10年6月13日 (土) 9:00～17:00
会 場：福岡商工会議所ビル
講習内容：第1回講習添削結果をもとに総合指導及び部門別指導
第1回講習添削結果をもとに個別指導

第3回講習会

日 時：平成10年6月20日 (土) 9:00～17:00
会 場：福岡商工会議所ビル
講習内容：模擬試験
試験場での筆記要領指導
模擬試験結果の採点・講評・今後の対策は後日郵送

第4回講習会

日 時：平成10年7月18日 (土) 9:00～17:00
会 場：福岡商工会議所ビル
講習内容：主要問題予想と直前対策
経験論文の仕上げ (個人別指導)

受講申込方法：九州地方技術士センターで受付けています。申込先着80名で打切ります。

受 講 料：申込票と共に￥120,000 郵送にて一括納入のこと

(別途)口述試験講習

日 時：平成10年11月21日 (土) 9:00～17:00
会 場：福岡商工会議所ビル
対 象：筆記試験合格者
講習内容：面接、口述試験対策の個別指導
本講習会は筆記試験合格者に対し、別途案内します。

注：本講習会は、技術士国家試験の『指定執行期間』である日本技術士会とは別組織の「九州地方技術士センター」が実施しているもので、誤解のないようにお願いします。

会員ニュース

☆日本技術士会（九州支部）入会

(地区)	(姓)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先/下段：勤務先)
<連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ>				
福岡	(正) 谷口	正博	建設	819-0013 福岡市西区愛宕浜 4-5-13 ☎(092)881-5511 勤：(株)長大福岡支社 ☎(092)472-3952/Fx(092)413-6630
福岡	〃 工藤	宗雄	建設	811-3221 福岡県宗像郡福間町若木台2-12-8 ☎(0940)43-3877 勤：(株)福山コンサルタント ☎(092)471-0211/Fx(092)471-0333
福岡	〃 石橋	治	建設	810-0053 福岡市東区箱崎 5-11-7-613 ☎(092)632-8067 勤：第一復建(株) ☎(092)431-9171/Fx(092)431-0725
福岡	〃 植田	薰	建設	818-0131 太宰府市水城 5-16-16 ☎(092)928-3453 勤：第一復建(株) ☎(092)431-9181/Fx(092)431-0726
北九州	〃 緒方	英雄	建設	820-0032 飯塚市東徳前 17-60 ☎(0948)23-9705 勤：第一復建(株) ☎(092)431-9173/Fx(092)461-2293
福岡	〃 金光	英雄	建設	841-0171 福岡市早良区野芥 6-46-18 ☎(092)863-6337 勤：第一復建(株) ☎(092)431-9182/Fx(092)431-0726
福岡	〃 高山	和典	建設	830-0213 福岡県三潴郡城島町江上 1380-5 ☎(0942)62-2448 勤：第一復建(株) ☎(092)431-9171/Fx(092)431-0725
福岡	〃 手島	春樹	建設	814-0123 福岡市城南区七隈 2-20-8 ☎(092)864-6114 勤：第一復建(株) ☎(092)431-0724/Fx(092)461-2288
福岡	〃 末光	晃一	建設	816-0864 春日市須玖北2-30 桜町マンション133番地 ☎(092)591-1364 勤：第一復建(株) ☎(092)431-0724/Fx(092)461-2288
北九州	〃 中村	達男	建設	800-0257 北九州市小倉南区湯川新町 2-23-25 ☎(093)931-8995 勤：第一復建(株) ☎(092)431-9170/Fx(092)461-2288
福岡	〃 畠山	美久	建設	819-0021 福岡市西区大町団地 13-204 ☎(092)882-0808 勤：第一復建(株) ☎(092)575-3344/Fx(092)575-3367
福岡	〃 箱嶋	斎	建設	810-1352 福岡市南区鶴田 4-38-9 ☎(092)565-7115 勤：第一復建(株) ☎(092)575-3344
福岡	〃 宮崎	良典	建設	816-0824 春日市小倉 213-1番地 ☎(092)585-0777 勤：第一復建(株) ☎(092)575-1151/Fx(092)571-2220
福岡	〃 山下	良好	応理	816-0864 春日市須玖北2-39 エフティ88-306番地 ☎(092)593-2897 勤：第一復建(株) ☎(092)575-3345/Fx(092)575-3367
長崎	〃 松永	光司	建設	850-0053 長崎市玉園町 1-29 ☎(095)822-1641 勤：第一復建(株)長崎事務所 ☎(095)827-5329/Fx(095)827-5343
熊本	〃 高井	一也	化学	860-0875 熊本市清水町新地 2110-11 ☎(096)338-9091 勤：井筒屋化学産業(株) ☎(096)352-8121/Fx(096)353-5083
福岡	〃 久保川	孝俊	建設	819-0055 福岡市西区生の松原 2-3-15 ☎(092)885-1379 勤：九州電技開発(株) ☎(092)281-5805/Fx(092)281-6811
北九州	〃 泊	正雄	応理	800-0227 北九州市小倉南区津田新町 1-13-26 ☎(093)471-4490
鹿児島	〃 藤本	滋生	農業	891-1201 鹿児島市西伊敷 5-22-5 勤：フジモト食品研究所 ☎(099)220-8763

☆日本技術士会(九州支部) 入会 (続き)

(地区) (姓) (氏名) (部門) (上段:連絡先 / 下段:勤務先)
福岡 (準) 濱口 隆志 情報工 812-0015 福岡市博多区山王 1-8-7-302 ☎(092)473-9825
勤: 大成印刷 株 ☎(092)472-2621
長崎 ノ 堀 浩一郎 水道 854-0124 諫早市中通町 35 市営住宅 103 ☎(0957)28-6140
勤: (株)九州設備公社 諫早営業所 ☎(0957)22-5766
熊本 ノ 西村 敏郎 建設 862-0929 熊本市西原 2-12-2 ☎(096)382-0332
勤: (株)東亞建設コンサルタント ☎(096)384-2265

☆日本技術士会(九州支部) 退会

鹿児島 (正) 岩下 秀雄 建設 平成9年11月19日 逝去
長崎 ノ 本多 勇 建設 平成9年11月26日 逝去
大分 ノ 石井 良男 建設 平成9年12月2日 逝去
福岡 ノ 糸乗 貞喜 建設
福岡 ノ 内田 勝己 建設
大分 ノ 川野 宏平 農業 平成10年1月21日 逝去(九州地方技術士センター会長)

☆九州地方技術士センター 入会

(地区) (姓) (氏名) (部門) (上段:連絡先 / 下段:勤務先)
佐賀 (正) 鶴田 芳昭 建設 841-0205 佐賀県三養基郡基山町けやき台4-26-7 ☎(0942)92-5556
勤: (株)東京建設コンサルタント九州支店 ☎(092)262-7311/Fx(092)262-7316
福岡 ノ 鶴田 益平 建設 819-0016 福岡市西区横浜 1-38-18 ☎(092)806-8364
勤: (株)東京建設コンサルタント福岡支店 ☎(092)262-7311/Fx(092)262-7316
北九州 ノ 藤村 秀樹 建設 808-0147 北九州市若松区高須北 3-7-10 ☎(093)741-0994
勤: 北九州市役所都市計画局 ☎(093)582-2644/Fx(093)582-2503
福岡 ノ 高橋 健二 建設 810-0033 福岡市中央区小笹 1-21-20 ☎(092)522-8972
勤: 高田機工(株)福岡営業所 ☎(092)473-0945/Fx(092)472-2044

☆九州地方技術士センター 退会

北九州 (正) 岸田 正坦 衛生工
福岡 ノ 佐竹 正行 建設
福岡 ノ 松尾 賢二 建設
長崎 ノ 河田 忠 資源工
北九州 (正) 岸田 徳康 衛生工
福岡 ノ 国府寺直規 水道
福岡 ノ 伊藤 明 建設

☆会員連絡先(住所)および勤務先変更

(地区)	(氏名)	(部門)	(区分)	(連:連絡先/勤:勤務先)	
鹿児島	下村 昭博	水道	連: 899-0216	出水市大野原 482	☎(0996)63-2103
福岡	岡部 礼一	建設	勤: 山博多コンサルタント㈱		☎(092)582-1290
福岡	吉岡 淳	船舶	連: 812-0054	福岡市東区馬出 5-16-5	
福岡	笠木 直行	建設	勤: ㈱アジア建設コンサルタント	☎(092)521-5931/Fx(092)524-0103	
福岡	岩吉 敬輔	建設	連: 815-0072	福岡市南区多賀 1-5-2	☎(092)553-7346
福岡	中野 剛一	建設	連: 813-0025	福岡市東区青葉 5-3-22	☎(092)691-1291
福岡	五反田 進	建設	連: 859-3211	佐世保市早苗町 474-2	
福岡	池田 昭弥	建設	連: 811-3212	福岡県宗像郡福間町花見浜 1-14-15	
福岡	八百山 孝	建設	連: 811-0104	福岡市城南区別府 3-4-20-804	
福岡	森 将彦	建設	連: 892-0854	鹿児島市長田 35-16	☎(099)224-2750
佐賀	森田 昭廣	建設	勤: 建設省武雄工事事務所牛津出張所		
福岡	橋村 賢次	建設	連: 811-2107	福岡県糟屋郡宇美町とびたけ 3-13-3	☎(092)933-1429
福岡	野添 秀昭	建設	連: 816-0962	大野城市つつじヶ丘 4-10-10	☎(092)595-7402
			勤: 清水建設㈱天建寺作業所		☎(0942)96-3533
福岡	鬼木 一也	応理	勤: アイ・デベロップ	コンサルタント	
					☎(092)761-0700/Fx(092)761-5277
福岡	甲斐 猛	建設	連: 815-0082	福岡市南区大楠 1-4-30	建設省大楠寮
北九州	永岩 広幸	機械	連: 800-0257	北九州市小倉南区湯川 5-7-8-401	
熊本	野崎 能啓	建設	連: 860-0832	熊本市萩原町 17-22-305	☎(096)379-2321
福岡	宮本 憲	建設	連: 272-0013	市川市高谷 2-7-7-107	☎(0473)27-2130
			勤: ㈱ 熊谷組菰川工事事務所		☎(092)752-6502
大分	宮崎 辰彦	建設	連: 876-0053	佐伯市高畠 2730-1	☎(0972)23-4647

☆会員連絡先(住所)および勤務先変更(続き)

(地区)	(氏名)	(部門)	(区分)	(連:連絡先/勤:勤務先)	
鹿児島	力武 和夫	建設		連: 892-0103 鹿児島市皇徳寺台 4-40-3 勤: 九電新塩浸発電所建設所	☎(099)265-3191 ☎(0995)76-2470/Fx(0995)76-2471
福岡	堤 利文	建設		連: 814-0021 福岡市早良区荒江 2-9-13-302 勤: 東洋建設㈱ 九州支店	☎(092)847-3778 ☎(092)761-5541
福岡	安達 秀夫	建設		連: 818-0061 筑紫野市紫 2-15-26	☎(092)921-2264
福岡	*㈱建設技建福岡支社			連: 810-0041 福岡市大名 2-4-12	☎(092)714-2211

*(注): 同社には多数の会員がおられるので、まとめて掲載しました。

—受付順、敬称略—<会員ニュース終わり>

◇会誌“技術士”最近号の主要項目

☆平成10年1月号

- ・卷頭言 新年の挨拶 /梅田 昌郎
- (ミニ特集)
 - モンゴルに根づく日本の技術
 - ・モンゴル国風力発電援助計画 /竹内 肇
 - ・旧ソ連製熱供給発火力電所改修/木岡 昇
 - ・モンゴル石炭開発協力 /佐藤 武比古
 - ・モンゴルとダルハン製鉄所の思い出 /鈴木 喬
- ・日-蒙-英 機械翻訳開発計画 /仲佐 博裕
- ・遊牧民と鉄道整備 /前田 謙二

☆平成10年2月号

- ・卷頭言 産官学連携と技術士会 /清水 宏晏
- ・紫外線照射併用オゾン酸化による有機性排水のリサイクル /和田 洋六
- ・住宅情報化配線について /犬伏 裕之
- ・CALS海外調査報告書 /河野 慎一郎

☆平成10年3月号

- ・卷頭言 生涯学習と技術士のあり方 思うままに /土岐 祥介
- (ミニ特集)
 - 京都環境会議の実現に向けて
 - ・新VWVシステムの開発 /谷津 和久
 - ・省エネルギー型空調技術 /増喜 博文
 - ・地熱等クリーンエネルギー利用技術 /立田 栄三
 - ・排水処理について /井上 祥一郎
 - ・二酸化炭素と珊瑚礁 /糸永 真吾

★投稿募集★

技術研究論文・技術士の主張・贊助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論会員の受賞などのニュースもお願いします。積極的な皆さんの投稿をお待ちしています。20字×10行=200字詰原稿用紙に2~3枚程度(用紙は事務局備付け)を目安に、支部事務局當てに送付して下さい。

編集後記

冬季オリンピックも終わり、やっと落ち着いた気分になりましたが、景気の方は一向に回復の兆しが見えません。金は無くとも知恵と技術は無限です。新しく技術士になられた皆さんと一緒に頑張りましょう。

支部では事務局の移転を考えています。丁度博多駅近辺(博多郵便局裏)に手頃な物件があったので目下交渉中です。順調に行けば5月の末か6月の始頃までには移転が可能となります。現在の事務所に比べ多少面積も広いので、小人数の会議も可能ですし、福岡市以外から来られる方には足の便が飛躍的に良くなります。

発行: (社)日本技術士会・九州支部
九州地方技術士センター
〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目
12-61 新天ビル 402
☎ (092)771-9534
Fax (092)731-8274